2025(令和 7)年度
事業報告書

自 2025 年 4月 1日
至 2026 年 3月 31 日

学校法人 純心女子学園
長崎市三ツ山町 235 番地

目　次

1. 法人の概要　…… 1 ページ
（1）基本情報
① 法人の名称
② 主たる事務所の住所、電話番号、FAX 番号、ホームページアドレス等
（2）建学の精神
（3）学校法人の沿革
（4）設置する学校・学部・学科等
（5）学校・学部・学科等の学生数の状況
（6）収容定員充足率
（7）役員の概要
（8）評議員の概要
（9）会計監査人の概要
（10）理事選任機関の概要
（11）教職員の概要
（12） その他
2. 事業の概要　…… 6 ページ
（1） 主な教育・研究の概要
「卒業の認定に関する方針」「教育課程の編成及び実施に関する方針」
「入学者の受入れに関する方針」等
（2） 中期的な計画（教学・人事・施設・財務等）及び事業計画の進捗状況・達成状況
（3）その他（事業所ごとの 2025 年度の活動状況等）
長崎純心大学
長崎純心大学大学院
純心中学校・純心女子高等学校
幼保連携型認定こども園長崎純心大学附属純心幼稚園
3. 財務の概要　…… 15 ページ
（1）決算の概要
① 貸借対照表
ア） 貸借対照表の状況と経年比較
イ） 財務比率の経年比較
② 事業活動収支計算書関係
ア）事業活動収支計算書の状況と経年比較
イ）財務比率の経年比較
③ 資金収支計算書関係
ア）資金収支計算書の状況と経年比較
イ）活動区分資金収支計算書の状況と経年比較
ウ）財務比率の経年比較
（2）その他
① 資産運用の状況
② 学校債の状況
③ 寄付金の状況
④ 補助金の状況
⑤ 収益事業の状況

学校法人　純心女子学園　事業報告

１．法人の概要

(1) 基本情報

① 法人の名称　　学校法人 純心女子学園

② 主たる事務所の住　　所　　長崎県長崎市三ツ山町 235 番地
電話番号　　095（846）0084
Fax 番号　　095（840）0470
ホームページアドレス　https://www.n-junshin.ac.jp

(2) 建学の精神

【学園標語】マリアさま　いやなことは私がよろこんで

【学園の建学の精神】

～ 寄附行為より ～

カトリックの精神に基づき人格教育を施し、もって有意な人材を養成するため、教育基本法及び学校教育法並びに就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律に従い、学校教育及び保育を行う。

【長崎純心大学の教育理念】

長崎純心大学は、カトリシズムの建学の精神に基づき、学術の中心として、真理を求め、広い知識と深い専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力の展開による全人教育に努め、地域と世界に貢献し得る有能な人物を育成すると共に、人類の平和及び文化と福祉の展開に寄与することを目的としている。

【長崎純心大学の教育目標】　知恵のみちを歩み　人と世界に奉仕する“Sapientia et Servitium”

江角ヤス初代学園長が学園に学ぶ学生に説き続けられたのは、「聖母マリアのように神と人々に喜ばれる人間」になるように励むことであった。大学のモットーである「知恵のみちを歩み　人と世界に奉仕するー知恵と奉仕ー」は、学園長江角ヤスの教えの具体的な教育目標を示すものである。

【純心女子高等学校・純心中学校の教育目標】

聖母マリアのように、神様にも人にも喜ばれる清く、賢く、優しい女性の育成を目指している。喜んで人のために奉仕し、平和のために貢献できるよう育てる。

【純心幼稚園の教育目標】

純心幼稚園が大切にしていることは、一人ひとりの子どもが神様にとって、かけがえのない「ひとり」であるという、カトリックの精神である。モンテッソーリの幼児教育に基づいて、神様に愛されていることを喜び、感謝し、心からその愛に応えられるように、子どもたちを育むことを目指している。

(3) 学校法人の沿革

1934 年 6 月	学園設置母体である純心聖母会創立
1935 年 4 月	純心女学院創立（長崎市西仲町（現在の中町））
1936 年 4 月	高等女学校令に基づく財団法人長崎純心高等女学校開設
1937 年 3 月	長崎市家野町（現在　文教町）に校舎落成し移転
1938 年 4 月	純心幼稚園開設
1940 年 5 月	純心保姆養成所開設（当時　九州唯一の保姆養成所）
1945 年 8 月	原爆により校舎全焼 214 名の職員・生徒殉難
1945 年 10 月	大村市植松町（元　大村海軍航空廠工員寄宿舎）にて授業開始、昭和 24 年 4 月に長崎市に復帰
1947 年 4 月	純心中学校開設
1947 年 5 月	純心女子専門学校（神学科・被服科）開設
1948 年 4 月	純心女子高等学校開設
1950 年 4 月	純心女子短期大学社会科開設（純心女子専門学校を母体とする）
1951 年 2 月	学校法人純心女子学園認可
1951 年 4 月	純心女子短期大学保育科開設（純心保姆養成所を母体とする）
1951 年 4 月	聖心幼稚園開設
1967 年 4 月	西彼純心幼稚園開設
1975 年 4 月	純心女子短期大学　長崎市三ツ山町 235 番地に移転
1983 年 4 月	純心女子短期大学英米文化科開設
1988 年 4 月	純心幼稚園改築　純心こども図書館を併設
1989 年 4 月	純心女子短期大学社会科に人文社会専攻及び社会福祉専攻設置
1991 年 4 月	純心女子短期大学専攻科（人文社会専攻、英米文化専攻）開設
1992 年 4 月	純心女子短期大学専攻科（人文社会専攻、英米文化専攻）学位授与機構認定
1992 年 4 月	純心女子短期大学専攻科（保育専攻）開設
1993 年 12 月	長崎純心大学設置認可
1994 年 4 月	長崎純心大学 人文学部（比較文化学科・現代福祉学科）開設
1995 年 3 月	純心女子短期大学社会科人文社会専攻廃止・専攻科人文社会専攻廃止
1995 年 4 月	純心女子短期大学社会科を社会福祉科に学科名称変更
1996 年 4 月	純心女子短期大学専攻科（保育専攻）学位授与機構認定
1998 年 4 月	長崎純心大学大学院人間文化研究科人間文化専攻修士課程開設
2000 年 3 月	純心女子短期大学社会福祉科廃止
2000 年 4 月	長崎純心大学人文学部人間心理学科開設
2000 年 4 月	長崎純心大学大学院人間文化研究科人間文化専攻博士後期課程開設
2000 年 4 月	純心女子短期大学を長崎純心大学短期大学部に名称変更
2001 年 3 月	長崎純心大学短期大学部英米文化科廃止
2001 年 4 月	長崎純心大学人文学部英語情報学科開設
2003 年 4 月	長崎純心大学人文学部児童保育学科開設
2007 年 3 月	長崎純心大学短期大学部廃止
2007 年 6 月	長崎純心大学附属純心保育園開設
2008 年 3 月	西彼純心幼稚園廃止
2008 年 4 月	認定こども園認定（純心幼稚園・純心保育園）
2015 年 4 月	幼保連携型認定こども園長崎純心大学附属純心幼稚園に移行（←純心幼稚園・純心保育園）
2015 年 12 月	純心女子学園創立 80 周年
2017 年 3 月	聖心幼稚園廃止
2017 年 4 月	長崎純心大学人文学部現代福祉学科を地域包括支援学科に学科名称変更
2018 年 4 月	長崎純心大学人文学部比較文化学科と英語情報学科を統合し、文化コミュニケーション学科を開設
2018 年 4 月	長崎純心大学人文学部児童保育学科をこども教育保育学科に学科名称変更
2019 年 4 月	長崎純心大学において全学科男女共学制
2024 年 4 月	長崎純心大学人文学部文化コミュニケーション学科を言語文化情報学科に、地域包括支援学科を福祉・心理学科に名称変更

(4) 設置する学校・学部・学科等、設置する幼保連携型認定こども園

学校名	学部等	開設年月日	所在地
長崎純心大学	大学院 人間文化研究科（修士） 人間文化研究科（博士） 人文学部 比較文化学科 地域包括支援学科※ 人間心理学科 こども教育保育学科※ 文化コミュニケーション学科	 1998年4月1日 2000年4月1日 1994年4月1日 1994年4月1日 2000年4月1日 2003年4月1日 2018年4月1日	長崎市三ツ山町235番地
純心女子高等学校	全日制課程普通科	1948年4月1日	長崎市文教町13番15号
純心中学校		1947年4月1日	長崎市文教町13番15号
幼保連携型認定こども園※ 長崎純心大学附属純心幼稚園		2015年4月1日	長崎市文教町13番15号

※　長崎純心大学人文学部 地域包括支援学科は、2017年4月、こども教育保育学科は、2018年4月名称変更。

※　幼保連携型認定こども園は、純心幼稚園（1937年4月1日開園）、純心保育園（2007年6月1日開園）より移行。

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況（2025年5月1日現在）

① 長崎純心大学

学年	学部	学科	入学定員	2025.5.1現在	備　考
1	人文学部	言語文化情報学科	80	76	
		福祉・心理学科	100	90	
		こども教育保育学科	100	93	
	人間文化研究科（博士前期課程）		15	6	
	人間文化研究科（博士後期課程）		3	1	
	小　計		298	266	
2	人文学部	言語文化情報学科	80	69	
		福祉・心理学科	100	72	
		こども教育保育学科	100	86	
	人間文化研究科（博士前期課程）		15	10	
	人間文化研究科（博士後期課程）		3	2	
	小　計		298	239	
3	人文学部	文化コミュニケーション学科	80	65	
		地域包括支援学科	100	76	
		こども教育保育学科	100	103	
	人間文化研究科（博士後期課程）		3	1	
	小　計		283	245	
4	人文学部	比較文化学科	－	1	
		文化コミュニケーション学科	80	73	
		地域包括支援学科	100	98	
		こども教育保育学科	100	92	
	小　計		280	264	
合　　計			1,159	1,014	

② 純心女子高等学校

学年	課程名	入学定員	2025.5.1現在	備　考
1	高等学校全日制課程普通科	150	112	
2		150	128	
3		150	114	
合　計		450	354	

③ 純心中学校

学年	課程名	入学定員	2025.5.1現在	備　考
1	中学校	80	59	
2		80	48	
3		80	48	
合　計		240	155	

④ 幼保連携型認定こども園長崎純心大学附属純心幼稚園

幼保連携型認定こども園	利用定員	2025.5.1現在	備　考
長崎純心大学附属純心幼稚園	230	210	認可定員　250

(6) 収容定員充足率（各年度5月1日）　(%)

学校名	2025年度	2024年度	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
長崎純心大学大学院	51.3	51.2	56.4	58.9	51.2	51.3	53.9
長崎純心大学	88.8	91.7	101.9	106.2	105.1	98.5	89.9
純心女子高等学校	78.7	78.4	76.0	70	70.9	70.7	72.9
純心中学校	64.6	57.0	55	55.4	57.9	62.9	64.6

(7) 役員の概要

理事　7～9名　　監事　2名

職　名	号	氏　名	就任年月日	常勤・非常勤	業務執行・非業務執行	備　考
理事長	2	山　田　幸　子	2018年4月1日 2021年4月1日*	常　勤	業務執行	学校法人純心女子学園理事長
理　事	2	木　村　美由紀	2022年3月7日	非常勤	非業務執行	宗教法人純心聖母会責任役員
	1	坂　本　久美子	2024年4月1日	常　勤	業務執行	長崎純心大学長
	1	佐　古　照　美	2020年4月1日	常　勤	業務執行	純心女子高等学校・純心中学校長
	2	松　本　俊　穂	2020年4月1日	常　勤	業務執行	長崎純心大学副学長
	2	伊　藤　雅　博	2025年3月31日	常　勤	業務執行	純心女子学園・長崎純心大学事務局長
	2	中　村　倫　明	2025年6月23日	非常勤	非業務執行	カトリック長崎大司教区教区長
	2	片　峰　　茂	2025年6月23日	非常勤	非業務執行	元長崎大学長
監　事		松　下　　清	2025年6月23日	非常勤		元長崎県代表監査委員
		溝　江　宏　俊	2025年6月23日	非常勤		元長崎県監査事務局長

※ 理事の号数

第1号…学長・校長のうちから理事選任機関において選任した者　2名

第2号…前号に掲げるもののほか、理事選任機関において選任した者　5～7名

＊は理事長就任年月日

◎責任の免除

学校法人純心女子学園 寄附行為第59条において、責任の免除について規定しているが、理事会としては、免除する議決を行っていない。

◎責任限定契約

学校法人純心女子学園 寄附行為第60条において規定しているが、契約を締結していない。

◎補償契約及び役員賠償責任保険契約の状況

日本私立大学協会の次の役員賠償責任保険制度に加入。

・私大協役員賠償責任保険　1E

(8) 評議員の概要

評議員　8～10人

号	氏　名	就任年月日	常勤・非常勤	備　考
1	足　立　耕　平	2025年6月23日	常　勤	長崎純心大学人文学部長・教授
	玉　城　雄　一	2025年6月23日	常　勤	純心女子高等学校・純心中学校教頭・教諭
	中　井　美　季	2025年6月23日	常　勤	長崎純心大学附属純心幼稚園長・保育教諭
2	平　山　　愛	2025年6月23日	非常勤	青野・平山法律事務所弁護士
	有　馬　博　美	2025年6月23日	非常勤	社会福祉法人純心聖母会軽費老人ホームときわ荘施設長
3	山　下　　肇	2025年6月23日	非常勤	山下肇法律事務所弁護士
	橋　田　慶　信	2025年6月23日	非常勤	社会福祉法人長崎市社会福祉協議会会長
	東　島　尚　志	2025年6月23日	非常勤	株式会社テレコムサービス代表取締役顧問
	永　井　徳三郎	2025年6月23日	非常勤	長崎市永井隆記念館館長

※　評議員の号数　第1号…法人の職員から選任した者
第2号…法人の設置する学校を卒業した者（年齢25年以上）のうち選任した者
第3号…法人に関係ある学識経験者及び功労者のうち理事会において選任された者

(9) 会計監査人の概要

定員　1人

氏　名	就任年月日	責任免除に関する決議等、責任限定契約、補償契約及び役員賠償責任保険契約の状況
山之内　茂　嗣	2025年6月23日	責任限定契約について締結している。

(10) 理事選任機関の概要

学校法人純心女子学園 寄附行為第6条において、「理事選任機関は、評議員会とする。」と規定しており、構成員は全ての評議員である。

(11) 教職員の概要

区分 / 部門	教員										職員			
	専任教員							契約	非常勤	教員合計	専任	契約	非常勤	職員合計
	教授	准教授	講師	助教	助手	教諭	計							
法人											1			1
長崎純心大学	22	25	12	2			61	0	143	204	34	5	23	62
純心女子高等学校						31	31	3	9	43	4	3	5	12
純心中学校						11	11	1	5	17	1	2	5	8
幼保連携型認定こども園 純心幼稚園						21	21	0	20	41	3	0	9	12

(12) その他

設置母体　　宗教法人純心聖母会

姉妹校　　学校法人東京純心女子学園
東京純心大学　　東京純心女子高等学校　　東京純心女子中学校
学校法人鹿児島純心女子学園
鹿児島純心大学　　鹿児島純心女子短期大学　　鹿児島純心女子高等学校
鹿児島純心中学校　　幼保連携型認定こども園鹿児島純心大学附属純心幼稚園

2．事業の概要

(1) 主な教育・研究の概要（2023 年度）

＝　*学位授与の方針（ディプロマポリシー）*　＝

〈人文学部〉

人文学部は、カトリシズムの精神に基づき、人間の人格性を基盤とする学部共通の教養教育と、各学科における高度な専門教育を行い、所定の単位を修得し、次のような力を身につけた学生に学位を授与する。

１．明瞭な根拠に基づいて理論的に思考し、判断する力を有する。
２．生涯にわたって、主体的に学び続ける力を有する。
３．自らの考えを表現するとともに、他者との意思疎通を図ることのできる言語能力を有する。
４．自らの教養と専門性に基づいて、他者と協調して社会に貢献することのできる力を有する。

〈人間文化研究科〉

カトリシズムの精神にのっとり創設されている長崎純心大学大学院人間文化研究科は、博士前期課程（前期２年、学位：修士）、博士後期課程（後期３年、学位：博士）で構成されている。研究分野は文化、福祉、心理、教育・保育の分野からなり、各分野においてその学術理論及び応用実験を攻究し、その成果をもって文化、社会の発展に寄与することを目的としています。

博士前期課程

この目的を達成するための指針

１．各研究分野における幅広い学問の基礎的能力
２．高度な専門知識と倫理観をもとにした多角的思考力と分析力
３．専門領域における問題解決力と専門職としての実践力

これらを身につけた上で修士論文または特定の課題の研究成果の審査及び最終試験に合格したものに、学位（修士）を授与します。

博士後期課程

この目的を達成するための指針

１．十分な学術専門知識
２．新たな知を創造する研究能力
３．各研究分野における優れた学術的な成果

これらを満たした上で博士の学位論文の審査及び最終試験に合格したものに、学位（博士）を授与します。

＝　*教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラムポリシー）*　＝

〈人文学部〉

【教育課程の編成】

人文学部では、学位授与方針（ディプロマポリシー）を達成するために４年間のカリキュラムを「基礎科目」、「基幹科目」、「応用科目」の３つの科目群によって編成します。

【教育内容・方法等】

「基礎科目」は、人文学部の全学生に共通の科目群であり、思考力、判断力、表現力の基盤となる教養、外国語の運用力、情報処理能力並びに健康の基礎を身に付けるとともに、地域社会の具体的な課題把握と解決のために主体的に学ぶ力を習得します。授業は、講義または演習形式で行います。

「基幹科目」は、各学科が目指す人材養成の目的を達成するために設けられた専門の科目群で、

社会における自立のために必要な力を習得します。授業は、講義または演習形式で行います。
「応用科目」は、広く社会に貢献するために必要となる専門の学芸を知的かつ道徳的に理解し、応用する能力を習得します。授業は、人文学部の全学生が執筆する「卒業論文」の執筆につながる少人数のゼミナールである「専攻演習Ⅰa」「専攻演習Ⅰb」「専攻演習Ⅱa」「専攻演習Ⅱb」で行います。

〈人間文化研究科〉
本研究科では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に示した能力を取得させるため、次のような体系的な教育課程を編成し、身につけるべき力を定めています。
博士前期課程
1．博士前期課程には、統合科目,基軸科目,展開科目からなるカリキュラムが設定されています。
2．本課程では、統合科目を履修し、また、他分野の基軸科目を履修することが可能であり、それによって多角的思考力や分析力を身につけます。
3．本課程では、専門分野の基軸科目、展開科目を履修することによって専門分野における問題解決力、専門職としての実践力を身につけます。
博士後期課程
1．博士後期課程には基軸科目、総合展開科目からなるカリキュラムが設定されています。
2．本課程では、基盤科目の履修により、十分な学術専門知識および新たな知を創造する能力を身につけます。
3．本課程では、統合展開科目により各研究分野で学術的な成果を上げるための実行力を身につけます。

＝　*学習成果の評価（アセスメントポリシー）*　＝
〈人文学部〉
人文学部全体としての学修成果の評価は、①学習時間・学習経験等に関するアンケート調査、②全科目を対象とする授業アンケート、③ＧＰＡ並びに単位取得状況によって行います。
講義科目は、知識の習得に加え、論理的思考力、記述力、読解力、発言力について学期末試験、授業内で臨時試験、レポート提出、リアクションペーパーなどによって評価します。
演習科目は、広く社会に貢献するために必要となる専門の学生を知的かつ道徳的に理解し、応用する力について、論文やレポート提出、プレゼテーションなどによって評価します。
〈人間文化研究科〉
博士前期課程
学修成果に対する評価は、以下の３点を総合的に評価します。
1．履修した授業科目の成績
2．提出される学位請求論文に係る研究発表
3．学位請求論文
博士後期課程
学修成果に対する評価は、以下の３点を総合的に評価します。
1．履修した授業科目の成績
2．提出される学位請求論文に係る学内外での研究発表
3．学位請求論文

＝　*入学者の受入れに関する方針（アドミッションポリシー）*　＝
〈人文学部〉
長崎純心大学は、キリスト教ヒューマニズムに基づき「知恵のみちを歩み　人と世界に奉仕する」を教育研究の指針としています。学力は豊かな人間性がそなわって知恵となり、人と世界に役立つとき、真の力となるからです。この指針のもと、本学人文学部は、文化コミュニケーション学科、地域包括支援学科、こども教育保育学科によって構成されています。
各分野において高い専門性を有し、人と世界に奉仕できる人間を育成することを使命とする長崎純心大学は、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえ、高等学校までに習得すべき基

本的言語運用能力を身につけた以下のような※入学生の受け入れを目指しています。
注）※は学科ごとのアドミッションポリシーを記載。

〈人間文化研究科〉

本研究科は、設置の目的と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、次のような学生を受け入れます。

博士前期課程

１．専攻する各研究分野について強い志向性と創造力のある人
２．研究を遂行する上での基礎的学力を有する人
３．外国人留学生の場合、研究等に必要な日本語能力を有する人

上記の人材を選抜するため本課程の入学試験では、提出された書類の審査及び個人面接による口頭試問を行います。さらに、臨床心理学分野においては、公認心理師として社会に貢献するために必要な心理学についての学部レベルの学力及び英語力を有する人を選抜するため、口頭試問に加え筆記試験を課します。

また、入学者選抜の基本方針として、複数の受験機会や多様な学生を評価できる入試を提供します。

博士後期課程

１．専攻する各研究分野に関する十分な学術専門知識を有する人
２．学術研究能力があると認められる人
３．外国人留学生の場合、研究等に必要な日本語能力を有する人

上記の人材を選抜するため本課程の入学試験では、提出された書類の審査及び個人面接による口頭試問を行います。口頭試問においては修士論文等や研究計画書を基にした質疑応答を通して、学術専門知識、学術研究能力、総合的思考力を判断します。

(2) 中期的な計画（教学・人事・施設・財務等）及び事業計画の進捗・達成状況

学校法人純心女子学園第4期中期目標・計画（2022年～2026年度）を策定し、「5年後にありたい姿」として、8割以上の学生が本学での教育及び学生生活に満足できるようにすること、学生の望む成長を教職員全員が全力でサポートすることを中期戦略目標に設定した。2025年度においては、それぞれの項目で点検・評価を実施した。2025年度の点検・評価を踏まえ、次年度以降の行動計画実施に向け、引き続き全力で取り組んでいく。

(3) 2025年度における各事業所においての主な活動は次のとおりである。

長崎純心大学　人文学部

１．教育

・ICTの利活用による教育の質向上を目的とした、ICTの環境の整備、技術支援・教育支援体制の整備、セキュリティへの対応に係る全学的な方針を定め、体制整備を行う（私立大学等改革総合支援事業タイプ1-⑥関連）。
【実施状況】対応済み。

・2026年度入学生よりデータサイエンス・AI科目の必修化を行う（私立大学等改革総合支援事業タイプ1-㉔関連。数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度関連）。
【実施状況】対応済み。

・能動的に授業に取り組む機会を増やすこと、また、情報化社会に対応できる力を養うことを目的とし、2026年度入学生からノートPCの必携化を行う方向で検討を進める（社会情勢の変化への対応）。
【実施状況】検討の結果、必携化は行わないこととなった。

・登録上限単位数を超えて履修登録している学生の人数や単位数等の実態把握を行い、これらの学生に対する学習時間の確保に向けた指導等について検討を行う（認証評価への対応）。
【実施状況】対応済み。

２．研究実践

・個人研究費の傾斜配分について、研究成果の有無をより適切に反映できるように、減額免除の対象となる条件の見直しを行う。2026年度予算申請より適用する（現状の問題点を踏まえた対応）。
【実施状況】未対応

・学内共同研究費運用規程について見直しを行う（認証評価への対応）。
【実施状況】検討を進めている。

３．地域貢献

・地域連携推進に関する目標・計画を策定し、活動指標及び取組全体に係る成果としてのアウトカム指標を設定する（私立大学等改革総合支援事業タイプ 3-⑥関連）。
【実施状況】対応済み。

４．学生支援

・中途退学学生の人数や退学時期、背景について把握を行い、具体的な対策を立てる（現状の問題点を踏まえた対応）。
【実施状況】中途退学学生の人数や退学時期、背景について把握を行った。対策の 1 つとして長期履修制度の改訂を行った。今後、さらなる対策を検討していく。

５．学生募集

・広報に関する基本方針を立て、計画的な広報活動を行う。また、大学 HP の改善を行う（現状の問題点を踏まえた対応）。
【実施状況】基本方針を立て、積極的な広報活動を展開した。大学 HP は引き続き検討を進める。

６．管理運営

・内部質保証体制を見直し、教育研究運営委員会から、全学的な点検・評価の結果に基づいた各組織体への改善のフィードバックが機能するよう、整備を行う（認証評価への対応）。
【実施状況】対応済み

・中高大連携教育を推進する。現在行っている①探究発表及び研究室訪問、②高大連携科目（地域の創造、長崎の探求、デザインプロジェクトⅠ）、③英語教育プロジェクトについて、担当教員間で連携を取りながら進めていく。特に②については科目内容について見直しを行う（中期目標・中期計画関連）。
【実施状況】対応済み

長崎純心大学　人間文化研究科

１．教育

・2024 年度の認証評価をふまえ、大学院の「ディプロマポリシー」に関して「教育の方針」について特に検討し、適切なポリシーを定め研究科委員会で確認する。
【実施状況】2025 年度には認証評価をふまえ、FD 活動として研究分野別に教員による話し合いを行い、その後の全体の会において「ディプロマポリシー」における「教育の方針」を、博士課程前期課程、後期課程において定めることができた。

２．研究実践

・カトリック大学および福祉系博士後期課程を持っている本研究科の独自性を活かした研究実践を推進する方策を検討する。
【実施状況】2025 年度、福祉文化研究分野では恵の丘長崎原爆ホームとの共同研究「恵の丘長崎原爆ホーム施設史研究」において、9 回のミーティングを行った。またカトリック大学学術奨励金「研究助成金」の申請を行った。現在、原爆ホームから刊行された書物や史資料をまとめ施設史年表を作成中である。

３．地域貢献

・研究科として、研究成果を通した地域への貢献の等について方策を検討する。
【実施状況】研究科所属の教員は、高大連携、産官学連携、出張講義・出前講義、公開講座などにおいて、他機関からの要請や希望に応じて、教員各々の研究成果を活かしながら協力することを通して、地域への貢献に取り組んでいる。研究科としての組織的な取組は行っていない。

４．学生支援

・院生の学習環境、生活環境に資する実態調査について検討し、方針を定める。
【実施状況】研究科修了後 3 年目を迎えた者、在学生、修了間際の院生を対象に、学習環境、生活環境についての質問紙調査を実施した。研究科 FD 委員会が中心となり質問紙調査の結果を確認し、学習環境、生活環境の改善について検討してきた。自由記述の回答から院生の要望を集約し、必要な備品の購入の可能性やそのた

めの院生の手続きなどについて、担当部局への確認が検討された。

５．学生募集

・2024 年度の認証評価に基づき、博士後期課程の定員を充足する方策について検討し、方針を定める。

【実施状況】2025 年度、研究科入試委員会を中心に、博士課程後期の入学定員について「身の丈」に合わせた定員数にすべく検討し、研究科において入学定員数を３名から２名に削減する方向で検討することになった。

６．管理運営

・内部質保証体制を見直し、教育研究運営委員会からの全学的な点検・評価の結果に基づいた各組織体への改善のフィードバックが機能するよう、研究科においても整備を進める。

【実施状況】2025 年度、教育研究運営委員会からの点検・評価の結果に基づいた改善のフィードバックが実際に機能するよう、内部質保証体制について整備を進めた。

❖施設・設備

① S 棟・L 棟空調設備改修工事（3 年計画 3 年目）　② C 棟・F 棟空調設備改修工事（3 年計画 1 年目）
③ 学食厨房空調新設工事　④ T 棟空調取替工事　⑤ 江角記念館空調取替工事
⑥ ヨゼフ館解体減築工事　⑦ 仮想サーバ再構築　⑧ 情報演習室再構築　⑨ LED 取替工事
⑩ 原水タンク取替工事　⑪ L 棟 2・3 階天井・壁張替え工事
⑫ 図書館カウンター（入退出管理）取替工事　⑬ 送迎車更新　⑭ 規則集管理システム導入
⑮ Web 年末調整電子申告システム導入

純心中学校・純心女子高等学校

１．教育活動

１）令和７年度の教育目標　「希望する」
- 地の塩　世の光（マタイ 5.13～16）
- 「必要」のために
- 清く・賢く・やさしい女性に

２）学校行事について

熱中症対策のため、9 月の体育大会と前期期末考査を入れ替えて計画していたが、月末になっても暑さは解消されず、体育大会は午前中のみの実施とした。

中学生は 1 年生の研修旅行、職業体験を 2、3 年生の 2 学年で実施、進路の幅を広げるために九州大学と麻生専門学校（各種）のいずれかを選択して訪問を実施した。定着させていきたい。

修学旅行は高Ⅱ アカデミックプロジェクト（AP）, キャリアプロジェクト（CP）が関東方面（3 泊 4 日）、グローバルプロジェクト（GP）がベトナム（5 泊 7 日）で実施した。海外への修学旅行の実施は初めてであった。

中学は来年度から中学 3 年次に実施するので、今年度は実施がなかった。

学園創立 90 年で中高が取り組んだことは、ロゴマークを生徒から募集し（昨年度）、様々な場で利用した。また、自由参加での作品を募集し、校内で展示した。ミサにおいては、最終的にミサ中の受け応えと、聖歌隊（音楽部、音楽選択者）を担当し、聖歌をしっかり歌うことに徹した。

３）校外活動について

①海外研修
- テレサ高校訪問（韓国）･･･5 月 22 日（木）～ 25 日（日）　生徒 12 名　引率教員 2 名
- テレサ高校受け入れ　10 月 16 日（木）～ 19 日（日）　生徒 12 名　引率教員 2 名
- ＊ベトナム修学旅行　12 月 9 日　（火）～15 日（月）　生徒 18 名（欠 1 名）　引率教員 3 名

②部活動・諸大会結果（上位入賞）について

【高校・運動部】
- バレーボール部　西九州私学大会（長崎／佐賀）準優勝　→全国大会出場
  長崎県新人大会 4 位　→九州大会出場
- 陸上部　長崎県高校総合体育大会（6 月）総合 2 位　各競技上位入賞　→北九州大会上位入賞　**→インターハイ出場（リレー２種目　個人４種目）**　＊各種大会で県高校新記録の更新など活躍が続く

・弓道部　長崎県高等学校総合体育大会（6 月）個人準優勝　→**インターハイ出場**
・空手道部　長崎県高等学校総合体育大会（6 月）個人形・組手準優勝　→**インターハイ出場**
・体操部　長崎県高等学校総合体育大会（６月）個人２名　→九州大会出場
・少林寺拳法（個人）女子自由単独演武　→九州大会出場　→**インターハイ出場**

【中学・運動部】
・バスケットボール部　長崎市中学総合体育大会（6 月）優勝　→長崎県大会優勝　→九州大会 3 位
→全国中学校総合体育大会出場
全国 U15 バスケットボール選手権大会長崎予選優勝　→**全国大会出場**
・バレーボール部　長崎市中学総合体育大会（６月）優勝　→長崎県大会出場
長崎県中学新人大会２位　→九州大会出場
・全国障害スポーツ大会（個人）　走幅跳優勝（大会新記録）

【文化部】
・九州合唱コンクール　県大会　中高校音楽部金賞　→九州大会出場
・高校生のための歌曲コンクール（個人）　→**全国大会出場**
全九州高等学校音楽コンクール声楽部門　県代表出場
・第 1 回プレアデス国際音楽コンクール　**全国大会出場**

【個人】
・高円宮杯全日本中学英語弁論大会　県大会準優勝　→**全国大会出場**

④その他の活動
＊未来の科学の夢絵画展（特別賞受賞）→大阪万博で発表の場（英語）があった。

4）特色ある教育としての主な活動（探究活動と平和教育、国際交流）

①平和教育
・8 月 8 日　　国立市の小中学生の受け入れ
・8 月 8～9 日　東京純心中高「平和の旅人」（生徒 4 名　教員 1 名）受け入れ
鹿児島純心中高「千羽鶴プロジェクト」（生徒 1 名　教員 1 名）受け入れ
・8 月 8～9 日　原爆慰霊祭（ミサと墓前祭）　＊前日　中学生による清掃奉仕
9 日　韓国ノゴク中学校　受け入れ
9 日　「長崎原爆犠牲者慰霊平和式典」（長崎市主催　於：平和公園）高校音楽部とⅡ年音楽選択者で「千羽鶴」の合唱
9 日　中学アドバンス同好会　校内での「原爆写真展」の実施
・8 月 29 日　　HIROSHIMA・NAGASAKI ゼミ生（栄光学園高等学校）の受け入れ
・3 月　4 日　　山里地区平和清掃活動（山里小／高尾小／坂本小／山里中／長崎南山高／純心高）

②探究活動
・全学年による探究活動
・長崎純心大学での発表と研究室訪問（Ⅱ年　25.4 月に実施）
・希望者による放課後の活動　（高）「藁の家プロジェクト」活動　（中）アドバンス同好会

③国際交流
・Tomodachi プロジェクト　／グローバルワークショップ
・長崎大学先端医療センターの留学生との交流

④長崎純心大学との連携（純心中高大連携英語教育推進プロジェクト）
・ネイティブ教員による英会話授業（年間 6 回）
・スピーチコンテスト審査員（7 月）　／プレゼンテーションコンテスト審査員（3 月）
・大学生による留学体験発表会（10 月）
・大学生による卒業論文発表会（1 月）
＊教職課程に在籍する学生の授業見学（英語）

⑤純心南山教育連携（純南）プロジェクト
・Live for peace 2025 開催（8 月 11 日　長崎ブリックホール）
・授業系：7 月～12 月　北九州予備校による受験対策講座（長崎純心大学地域連携センター）
・Tomodachi プロジェクト等のグローバルワークショップ　／11 月 5 日（水）三校（青山学院高・南山・純心）で「平和」をテーマにディスカッション／11 月 7 日（金）タンゴ＆ジャズコンサート・平和企画
・広報連携：教育連携リーフレット作成（4 作目）／合同地区説明会

２．教職員研修

① 4月25日（金）「PEP TALK!（ペップトーク）～やる気を引き出す言葉の力～　講師：一般財団法人日本ペップトーク普及協会理事　堀　寿次先生
② 7月 8日（火）　デジタル採点について（本校教員）
③ 8月21日（木）①学園の財務状況について（伊藤雅博法人事務局長）
④ 令和８年度の入試日の確認と変更点について
⑤ 生徒確保のためにできること（グループ討議）

３．施設整備・改修

①江角記念館　空調機器更新工事　（６月）　5,698,000円（中高分 3,049,231円）
②第一パソコン室機器入替４１台　（８月）　7,298,720円

４．総括

新コース設定(アカデミックプロジェクト(AP)・グローバルプロジェクト(GP)・キャリアプロジェクト(CP))から3年目となり、完成年度であった。各プロジェクトの特徴が出せており、概ね成功であったと思っている。生徒たちも所属しているプロジェクトを理解して選び、そこに身を置いているようである。ただ、学年によって各プロジェクトの人数に偏りがあり、クラス編成、担任配置が上手くいかない課題も抱えている。

また、このプロジェクトを立ち上げる際にキャリアプロジェクト（CP）の充実を掲げてきた通り、その特徴であるキャリアデザイン（選択講座）の幅が拡がり、生徒の必要性と興味・関心に応じて講座を選択できる点が上手くいっているのではないかと思う。しかし、教員の数が少ないので、各教科でできる限りの努力をして開講している。

グローバルプロジェクト（GP）においては、その特徴を活かすために朝礼・終礼を英語で行っているが、担任が英語科教員に固定化されてしまう点が課題である。また、海外への修学旅行がアピール点である。今年度初めてベトナムへの修学旅行が実現した。

国公立大学の合格者数は普通科校において、大いに生徒募集に影響があると思われるが、年々厳しくなっている現状がある。国公立を受験する多くが総合型、学校推薦型で受験する。何とか、一定数の合格者を得ることができた。その中で、共通テストの結果を必要とする大学もあるが、現在は、共通テスト向けの夏期冬期の補習は一定期間あるものの、日常で特別な手当をしているわけではない。

生徒募集に関して今年度は、入試広報担当の仕事量を分け合って、中学校訪問を高校全教職員で手分けして実施した。小学校訪問は中学所属の固定教員が行った。年に数回、学校案内、募集要項、チラシ等をもって挨拶、案内、お礼をして回っている。確定しない授業料無償化のアピールは難しく、結局、生徒数を増やすことはできなかった。長崎が公立志向であるだけではなくて、他の私学は生徒数を伸ばした学校があるので、純心らしさと同時に特徴あるアピール材料を明確にしていく必要があると実感している。

また、純心が好きな積極的な生徒が増えてきていると同時に、中学も高校も様々な配慮が必要な生徒が増えており、特別支援の対応が必要になっている。積極的な教員の学びの場を確保していきたいと思っている。

幼保連携型認定こども園長崎純心大学附属純心幼稚園

１．認可定員２５０名

園児数状況

幼保連携型認定こども園 長崎純心大学附属純心幼稚園	利用定員	R７（2026.3.1現在	備考
	２１０名	２００名	

２．保育・教育目標

神様の似姿に創られたいのちを大切に、神様にも人にも喜ばれる人を育てることを目指して教育保育に努めた。毎日の教育保育の示唆としてお祈りをする子ども、心の優しい子ども、生きる力を持つ子どもを育てることを目標に“神さまから託されている　子どもを通して私は伝えたい！！愛されること　愛すること　生きる喜び“をミッションとして掲げ、純心幼稚園の教育の実践に努めてきた。

３．教育・保育内容

① 神さまの似姿として創られたいのちを大切に、人に対する愛情と信頼する心を育てることを目指した。
② 一人ひとりの家庭環境を見極め、教育と養護のバランスに配慮しながらモンテッソーリ教育の充実を図った。

③ 子どもの様々な内面の要求を満たし、モンテッソーリ教育を通して宗教・体育・絵画・音楽を通して生命の保持および情緒の安定を図った。
④ 基本的生活習慣や言葉を身につけ、一人で出来ることに喜びを持てるように自立を促した。

4. 給食の実施状況

① 毎月１回の給食検討会を持ち、楽しい食事の時間となるよう配膳、行事食、個別の対応を継続した。
② アレルギー体質の子どもへの対応には、保護者と栄養士の個別対応を実施し医師の診断書のもとに事故のないよう全職員に周知し配慮した。
③ 愛情弁当の日を毎月土曜日を含め 3～4 回程度。給食試食会を行い保護者様のアンケートからレシピを頂きたいとの意見も出され食育への関心が高くなって来た。インスタグラムで毎日給食の献立を配信することで、親子の会話に繋がっている。偏食のお子様が増加している傾向にあり、食べやすいメニューや作り方などを管理栄養士の目線で保護者に伝えるなど、工夫している。今後も、少しでも楽しい食事が出来るようにメニュー、食材等の検討を行う必要性を感じる。

5. 教職員研修

・キャリアアップ研修該当者は全員は、Web 研修でまとめて受講を完了した。
研修で学び得たことを、園内研修で共有する時間を設けた。
・モンテッソーリ教育 0-3 アシスタントコースを１名受講し、ディプロマ取得に繋がる。他にも長期休暇中に体育研修に数名参加し新年度に備えた。
・モンテッソーリ教育は純心大学の養成コースと外部の研修情報を共有し、園内での学びを深めた。

6. 小学校連携

・2025 年度も南山小学校と、聖マリア学院小学校の学校訪問を実施することができ、校内の見学や体験を通して、小学校入学への期待を持つことができた。
・今年も困り感を持つお子様に対しての巡回相談が多数となった。また、保護者からの要請で小学校の担当者と連携して専門機関の指導と園訪問を依頼するなど事例も出てきた。これまで通り、要録と併せて入学までの連携と移行について、園児が安心して小学校生活を送れるよう配慮した。

7. 長崎純心大学・純心中学校・純心女子高等学校との連携

・例年、純心大学の塩月ゼミ生との活動を行い、全クラスでの年齢別活動の中で、子どもたちが楽しく活動に取り組み学生との交流を図ることができた。
・モンテッソーリ教師養成コースの主任の林先生には、年間通してモンテッソーリ教育の環境と保育教諭の資質向上のために実習指導、現場指導と園内研修を依頼し可能な範囲で実施継続した。保護者対象でモンテッソーリセミナーもしていただいた。
・幼稚園・保育園実習は、積極的に受け入れを行った。
・中学・高等学校に関しては、農作体験や放課後のボランティア活動を定期的に計画していただいた。
また、ボランティア部が長崎キワニスクラブと連携して、キワニスドールを子ども達にプレゼントしてくださり、良い経験ができた。

8. 純心聖母会との連携

・シスター方には会うたびに、声をかけていただいて、お互いに癒しの時をいただいている。
・勤労感謝の日には、お祈りで支えてくださっているシスター方に、子ども達が制作した物をプレゼントし、感謝の気持ちを伝えた。
・保護者向けの宗教勉強会（カンターボ）は、人数制限をせずに、対面で行うことができた。外部評価委員でもあられるシスター堀川サカエ先生に一緒に会に入っていただき、少人数の中で子どもたちと同じ体験を通して、子育て世代の保護者支援と宗教教育への理解に繋げてきた。

9. 苦情解決第三者委員

苦情受付件数は　１年間を通してありませんでした。

10. 施設整備修繕及び修理

・4 月　食器洗浄機の設置
　　ランチルーム・つぼみ組　ブラインド取替、修理
・5 月　ホール廊下側カーテン取替、わかば組カーテンレール修理
・9 月　職員室入口ドア滑車交換
・10 月　たんぽぽ組エアコン修理

11. 総括　2025 年度の主な実施事業報告について

2025 年度は、クラス替えを行ったため、子ども達の心の面を心配していたが、保護者、職員のフォローもあり、園での子ども達は、昨年度と変わらず、朝から元気に登園し、モンテッソーリ教具での活動を楽しむ姿が見られた。

教育・保育においては、モンテッソーリ教育の理念のもと、主体的な活動を支える環境の整備を進めるとともに、認定こども園として、0 歳から就学前まで発達の連続性を踏まえた教育・保育の充実を図った。また、年間計画に基づき、各行事及び宗教的行事を実施し、祈りを通して、感謝と思いやりの心、命を大切にする心の育成に努めた。

保護者との連携については、懇談会、個人面談、園だより等を通じて、教育・保育内容及び子どもの成長の共有を図り、信頼関係の深めるように努めた。

今後もホームページのブログや、インスタグラムなどを活用し、外部への情報提供を充実させていきたい。また、地域との連携を深め、子育て世代の保護者支援とそのニーズに対応できるよう園全体で研鑽していくように努めていく。

3.財務の概要

(1)決算の概要

①貸借対照表関係

ア)貸借対照表の状況と経年比較

貸借対照表については、純資産構成比率約93%とおおむね良好な状態で推移している。

(単位:円)

	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	2023(令和5)年度	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度
固定資産	12,629,823,318	12,520,894,742	12,543,426,085	12,222,121,739	11,788,026,723
流動資産	1,123,841,948	1,163,629,622	1,056,431,926	1,110,262,275	990,021,062
資産の部合計	13,753,665,266	13,684,524,364	13,599,858,011	13,332,384,014	12,778,047,785
固定負債	699,896,543	653,367,109	621,890,211	596,702,109	592,262,319
流動負債	255,989,306	259,428,213	243,371,199	251,177,014	357,758,399
負債の部合計	955,885,849	912,795,322	865,261,410	847,879,123	950,020,718
基本金	12,657,215,901	12,777,351,791	13,072,130,040	13,198,346,731	13,341,241,132
繰越収支差額	140,563,516	△ 5,622,749	△ 337,533,439	△ 713,841,840	△ 1,513,214,065
純資産の部合計	12,797,779,417	12,771,729,042	12,734,596,601	12,484,504,891	11,828,027,067
負債及び純資産の部合計	13,753,665,266	13,684,524,364	13,599,858,011	13,332,384,014	12,778,047,785

イ)財務比率の経年比較

	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	2023(令和5)年度	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度
運用資産余裕比率	288.5%	286.9%	267.3%	260.0%	217.8%
流動比率	439.0%	448.5%	434.1%	442.0%	276.7%
総負債比率	7.0%	6.7%	6.4%	6.4%	7.4%
前受金保有比率	515.4%	590.8%	597.6%	578.9%	561.9%
基本金比率	98.7%	98.8%	99.0%	99.2%	99.3%
積立率	107.4%	107.0%	101.7%	96.2%	87.8%

②事業活動収支計算書関係

ア)事業活動収支計算書の状況と経年比較

令和4年度から学生生徒数減少は続いている。人件費、教育研究経費も増加傾向で

教育活動収支差額以下の収支差額がすべて赤字となり、翌年度繰越収支差額の赤字幅が拡大。

(単位:円)

科目		2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	2023(令和5)年度	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	1,409,184,074	1,388,007,343	1,367,874,968	1,251,026,575	1,254,835,316
	手数料	18,624,230	18,211,250	16,373,470	17,534,580	15,905,200
	寄付金	10,770,905	21,752,920	152,041,927	104,797,405	17,503,722
	経常費等補助金	707,078,181	718,411,667	734,613,401	697,952,905	790,716,668
	付随事業収入	0	0	0	0	0
	雑収入	49,888,539	92,018,806	115,326,516	126,758,835	92,644,354
	教育活動収入計	2,195,545,929	2,238,401,986	2,386,230,282	2,198,070,300	2,171,605,260
	事業活動支出の部					
	人件費	1,395,321,854	1,419,017,696	1,531,220,294	1,570,194,256	1,584,415,647
	教育研究経費	679,836,790	749,718,390	768,273,623	747,687,903	986,366,033
	管理経費	203,513,703	150,438,651	167,947,881	172,623,027	187,369,729
	徴収不能額等	0	121,250	102,300	74,200	60,000
	教育活動支出計	2,278,672,347	2,319,295,987	2,467,544,098	2,490,579,386	2,758,211,409
	教育活動収支差額	△ 83,126,418	△ 80,894,001	△ 81,313,816	△ 292,509,086	△ 586,606,149
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	44,786,045	41,202,422	48,319,180	49,560,923	54,876,738
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	44,786,045	41,202,422	48,319,180	49,560,923	54,876,738
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	44,786,045	41,202,422	48,319,180	49,560,923	54,876,738
経常収支差額		△ 38,340,373	△ 39,691,579	△ 32,994,636	△ 242,948,163	△ 531,729,411
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	9,620,000	99,999	0	0
	その他の特別収入	138,350,426	14,406,319	6,382,447	4,452,422	6,414,705
	特別収入計	138,350,426	24,026,319	6,482,446	4,452,422	6,414,705
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	70,643,895	10,385,115	10,620,251	11,595,969	22,760,963
	その他の特別支出	0	0	0	0	108,402,155
	特別支出計	70,643,895	10,385,115	10,620,251	11,595,969	131,163,118
	特別収支差額	67,706,531	13,641,204	△ 4,137,805	△ 7,143,547	△ 124,748,413
基本金組入前当年度収支差額		29,366,158	△ 26,050,375	△ 37,132,441	△ 250,091,710	△ 656,477,824
基本金組入額合計		△ 103,170,199	△ 120,135,890	△ 294,778,249	△ 126,216,691	△ 161,182,196
当年度収支差額		△ 73,804,041	△ 146,186,265	△ 331,910,690	△ 376,308,401	△ 817,660,020
前年度繰越収支差額		192,038,557	140,563,516	△ 5,622,749	△ 337,533,439	△ 713,841,840
基本金取崩額		22,329,000	0	0	0	18,287,795
翌年度繰越収支差額		140,563,516	△ 5,622,749	△ 337,533,439	△ 713,841,840	△ 1,513,214,065
(参考)						
事業活動収入計		2,378,682,400	2,303,630,727	2,441,031,908	2,252,083,645	2,232,896,703
事業活動支出計		2,349,316,242	2,329,681,102	2,478,164,349	2,502,175,355	2,889,374,527

イ)財務比率の経年比較

	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	2023(令和5)年度	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度
人件費比率	62.3%	62.2%	62.9%	69.9%	71.2%
教育研究経費比率	30.3%	32.9%	31.6%	33.8%	44.3%
管理経費比率	9.1%	6.6%	6.9%	7.7%	8.4%
事業活動収支差額比率	1.2%	−1.1%	−1.5%	−11.1%	−29.4%
学生生徒等納付金比率	62.9%	60.9%	56.2%	55.7%	56.4%
経常収支差額比率	−1.7%	−1.7%	−1.4%	−10.8%	−23.9%

③資金収支計算書関係

ア)資金収支計算書の状況と経年比較

学生生徒数が令和4年度以降減少に転じているも、学生生徒納付金収入は授業料等引上げにより微増。
人件費支出は退職金支出減少により微減。令和7年度は、3年計画で実施していた大学での大型空調施設工事が終了。

(単位:円)

収入の部	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	2023(令和5)年度	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度
学生生徒等納付金収入	1,409,184,074	1,388,007,343	1,367,874,968	1,251,026,575	1,254,835,316
手数料収入	18,624,230	18,211,250	16,373,470	17,534,580	15,905,200
寄付金収入	11,770,809	23,700,041	152,765,927	107,283,405	17,825,722
補助金収入	839,819,181	729,957,667	738,431,401	697,952,905	793,713,668
資産売却収入	4,500,000	0	100,000	0	360,800
付随事業・収益事業収入	0	0	0	0	0
受取利息・配当金収入	44,777,092	41,190,135	48,200,393	49,217,536	54,288,188
雑収入	110,071,775	94,722,766	129,907,715	132,828,449	92,896,660
借入金等収入	220,000,000	0	0	0	0
前受金収入	172,619,500	180,573,500	159,453,500	169,652,500	162,476,500
その他の収入	625,652,492	663,370,300	1,005,376,542	1,005,891,974	1,391,724,554
資金収入調整勘定	△ 416,627,973	△ 257,281,090	△ 275,761,840	△ 274,240,497	△ 237,390,755
前年度繰越支払資金	975,919,209	892,047,815	1,066,792,512	952,881,112	982,103,836
収入の部合計	4,016,310,389	3,774,499,727	4,409,514,588	4,110,028,539	4,528,739,689

支出の部	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	2023(令和5)年度	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度
人件費支出	1,467,022,438	1,447,611,090	1,556,638,391	1,580,835,829	1,568,163,014
教育研究経費支出	475,764,587	543,303,752	561,474,442	527,410,764	777,745,648
管理経費支出	176,216,319	121,627,029	140,017,577	143,408,450	159,648,235
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	10,640,000	20,640,000	20,640,000	20,640,000	20,640,000
施設関係支出	311,351,460	32,098,522	144,815,220	82,291,000	39,384,377
設備関係支出	41,405,129	42,379,174	103,646,570	18,720,154	88,210,495
資産運用支出	640,993,168	495,178,054	937,875,675	746,294,040	968,058,620
その他の支出	23,740,681	24,392,542	17,085,823	29,532,556	20,028,154
資金支出調整勘定	△ 22,871,208	△ 19,522,948	△ 25,560,222	△ 21,208,090	△ 26,077,170
翌年度繰越支払資金	892,047,815	1,066,792,512	952,881,112	982,103,836	912,938,316
支出の部合計	4,016,310,389	3,774,499,727	4,409,514,588	4,110,028,539	4,528,739,689

イ)活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

学生数減少に伴い教育活動資金収入は減少。教育活動資金支出は増加傾向。令和7年度も、教育活動資金収支差額が
大幅赤字となる厳しいものとなった。
なお、施設設備等活動資金収入と支出の大部分は減価償却特定資産の償還と再運用に伴うもの。

(単位:円)

科目		2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	2023(令和5)年度	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度
教育活動による資金収支						
	教育活動資金収入計	2,255,729,609	2,240,679,335	2,400,811,481	2,204,139,914	2,171,857,566
	教育活動資金支出計	2,119,003,344	2,112,541,871	2,258,130,410	2,251,655,043	2,505,556,897
	差引	136,725,725	128,137,464	142,681,071	△ 47,515,129	△ 333,699,331
	調整勘定等	△ 81,358,220	20,326,629	△ 34,621,748	△ 16,530,751	46,937,213
	教育活動資金収支差額	55,367,505	148,464,093	108,059,323	△ 64,045,880	△ 286,762,118
施設整備等活動による資金収支						
	施設整備等活動資金収入計	610,570,000	373,499,732	854,642,000	800,595,000	752,742,800
	施設整備等活動資金支出計	884,756,589	506,437,696	979,041,790	731,120,154	541,657,872
	差引	△ 274,186,589	△ 132,937,964	△ 124,399,790	69,474,846	211,084,928
	調整勘定等	△ 128,081,000	119,509,000	10,365,000	0	0
	施設整備等活動資金収支差額	△ 402,267,589	△ 13,428,964	△ 114,034,790	69,474,846	211,084,928
	小計(教育活動資金収支差額 ＋施設整備等活動資金収支差額)	△ 346,900,084	135,035,129	△ 5,975,467	5,428,966	△ 75,677,190
その他の活動による資金収支						
	その他の活動資金収入計	383,561,267	126,039,162	119,671,605	162,063,200	581,876,607
	その他の活動資金支出計	120,853,025	86,131,146	228,432,040	137,833,266	575,669,060
	差引	262,708,242	39,908,016	△ 108,760,435	24,229,934	6,207,547
	調整勘定等	320,448	△ 198,448	824,502	△ 436,176	304,123
	その他の活動資金収支差額	263,028,690	39,709,568	△ 107,935,933	23,793,758	6,511,670
支払資金の増減額(小計＋その他の活動資金収支差額)		△ 83,871,394	174,744,697	△ 113,911,400	29,222,724	△ 69,165,520
前年度繰越支払資金		975,919,209	892,047,815	1,066,792,512	952,881,112	982,103,836
翌年度繰越支払資金		892,047,815	1,066,792,512	952,881,112	982,103,836	912,938,316

ウ)財務比率の経年比較

	2021(令和3)年度	2022(令和4)年度	2023(令和5)年度	2024(令和6)年度	2025(令和7)年度
教育活動資金収支差額比率	2.5%	6.6%	4.5%	-2.9%	-13.2%

(2)その他

①資産運用の状況

資産運用規程に基づき、資産の運用に関する取扱の基準及び方法を定め、資産を安全かつ有利に運用し学園の発展に資することを目的としている。

(単位:円)

有価証券の種類	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	2,141,507,923	1,923,169,500	△ 218,338,423
株式	170,217,800	829,770,624	659,552,824
投資信託	241,925,734	345,067,372	103,141,638
合計	2,553,651,457	3,098,007,496	544,356,039

②学校債の状況

発行なし。

③寄付金の状況

	件数	金額(円)
特別寄付金	83人	9,353,722
一般寄付金	4人	8,150,000
施設設備寄付金	2人	322,000
合計	89人	17,825,722

④補助金の状況

(単位:円)

	金額
国	355,096,200
県	201,444,000
市・町	237,173,468
合計	793,713,668

⑤収益事業の状況

なし。

(3)経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

大学については平成30年度から全学科男女共学としたこともあり、入学者数が回復し、在学生も増加していたが令和4年度入学者から定員割れとなった。中学・高校は改善策を検討し、取り組んだ結果、令和5年度に入学者数は下げ止まったが、定員割れが常態化している。入学者の確保は経営上の第一の課題。

今後もカトリックの精神に基づく人格教育と有為な人材の育成を実現し、その成果を広く地域に知らしめ学園一丸となった広宣活動や募集活動を行い、新入生の確保を図ることで、収入の増加を目指す。